

# 独法土研

2007.8.24

第 74 号

8 月号

独立行政法人

土木研究所

茨城県つくば市南原 1 番地 6

TEL : 029-879-6700

<http://www.pwri.go.jp/>

## つくばちびっ子博士 2007



普通の舗装と遮熱性舗装・保水性舗装の違いについて説明を受ける子供たち

つくば市等が主催するつくばちびっ子博士を国土技術政策総合研究所と合同で7月27日に実施しましたので、ご紹介します。

つくばちびっ子博士は21世紀を担う子供たちがつくば市内の研究機関等において科学技術に触れることにより、科学技術に対する関心を高めることを目的として平成11年度から実施されているものです。つくばちびっ子博士に参加する小中学生が市内の指定見学施設を見学し、つくば市から配布されるパスポートに6カ所以上のスタンプを押

### 第 74 号もくじ

|                |   |
|----------------|---|
| つくばちびっ子博士 2007 | 1 |
| サイエンスパーク 2007  | 3 |
| 幹部交代ご挨拶        | 4 |

|                |   |
|----------------|---|
| 第2回ものづくり日本大賞受賞 | 6 |
| お知らせ           | 7 |
| 編集後記           | 8 |

し事務局に提出するとつくばちびっ子博士、12カ所以上ならば優秀つくばちびっ子博士に、更に18カ所以上の見学スタンプに感想文を添えて提出すると最優秀つくばちびっ子博士に認定されるという制度です。

長引いた梅雨もようやく空け、当日は天気がよくなり、非常に暑くなりました。午前、午後の合わせて6回の見学バスの運行で、全部で大人・子供合わせて296名の皆さんに見学して頂きました。各担当者は駐車場の誘導、見学バスの添乗、受付など、フル回転状態でした。見学バスは国土技術政策総合研究所本館脇から試験走路に入り、実



透水性舗装・排水性舗装の体験



遮熱性舗装に手を触れて体験

大トンネル実験施設を走り舗装走行実験場へと向かいました。試験走路では、添乗者が見学者に試験走路の使用目的、大きさなどについて説明し、南ループ手前の舗装走行実験場で降車していただき、舗装チームの担当者が舗装の役割・構造について説明し、更に現在問題となっている都市型豪雨対策としての車道透水性舗装、ヒートアイランド現象の軽減対策の一環としての遮熱性舗装・保水性舗装など最新の舗装技術について説明しました。子供たちは、舗装の模型に水をかけ、水が舗装の中にしみ込む様子を見たり、夏の日射しに照らされて暑くなった普通のアスファルト舗装と遮熱性舗装・保水性舗装に実際に手を触れて温度の違いを体験し

ました。

舗装走行実験場の後は、再び見学バスで南ループまで移動し、車から降りてバンクを上まで登って傾斜を実際に体験していただきました。その後、バスに乗り高速走行を体験していただきました。

今年度は第9回目のちびっ子博士となり、地元の方にも認知され人気が出てきているようで、予約受付の初日に見学申し込みが相次ぎ、急遽大型バスを借り上げて対応する一幕もありました。今年度のつくばちびっ子博士が無事終了できましたことは、各研究チーム、各研究室の方々など、関係された皆様のご協力の賜です。この誌面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



バンクの体験

(総務課)



## サイエンスパーク 2007

去る7月31日(火)、札幌市の総合ショッピングモール、サッポロファクトリーにおいて、「サイエンスパーク 2007 (主催：独立行政法人科学技術振興機構、北海道)」が開催され、寒地土木研究所が参加、出展する機会を得ましたので、簡単に報告します。

サイエンスパークは豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興のため、本道の未来を担う子ども達に、科学技術を身近に体験し、学ぶ機会を提供することにより、科学技術に対する興味と理解の増進を図ることを目的に開催されたものです。参加機関は北海道内の



展示ブース全体



蛇行復元模型

21 機関(民間企業、研究機関、教育機関)で、会場一杯に様々なジャンルの展示ブースが並び、ちょうど夏休みに入ったばかりだったせいか、たくさんの親子連れの方が来場されていました。(事務局の公表した入場者数は7,700名)

寒地土木研究所の展示ブースでは、土木研究所のポスターのほか、蛇行復元模型、降雨浸透模型の2つを展示しました。北海道ではここ100年ほどの間に河川の蛇行が直線化され、周辺の開発が進められてきました。「蛇行復元模型」は、なぜ蛇行した川をわざわざ直線化する必要があったのだろうか?という素朴な疑問に答える模型です。川の蛇行化、直線化は取外し可能な数個のブロックで簡単に行え、魚、樹木、家屋、牛などの模型も配置し、水が流れるのを見ているだけでも楽しい模型になっています。「降雨浸透模型」では、一見して同じように見える2つの領域に雨を降らせると、水の出方が異なるのはなぜだろう?ということを体験できるものです。山の緑も保水力の一端を担っていると考えられていますが、実は地質(特に火山灰など)が重要な役割を果たしている、といった内容を擬似的に体験できるものです。



降雨浸透模型

いずれの模型も実際に水を使って展示していたせいか、なかなか盛況でした。

(水環境保全チーム・企画室)

## 就任及び退任のご挨拶～幹部交代～



研究調整監 木下賢司

8月1日付けで研究調整監を拝命いたしました木下です。どうぞよろしくお願いします。

以前、平成9年から11年にかけて土木研究所に在籍したことがあります。建設マネジメント技術研究センター発足の時でした。産・学・官から結集した若者達に囲まれ、新たな研究領域の開拓に向け昼夜を分かたず熱く議論を交わしたことを覚えています。その後、マネジメントの実践の場に身を置いてきましたが、知行合一に向けた取り組みに大いに意欲をかき立てられたのは、あのつくばでの熱気のせいだと思っています。

あれから約8年が過ぎました。その間、土木研究所は独法土研になり、組織の成り立ちは大きく変わりました。独法としての研究機関のあり方は大きな課題で、国交省の政策推進を担う立場の国総研との対比の上でも、より広い地平での独自の研究領域の確立が求められているのかと思います。従来からの枠を越えた新たな研究領域の開拓、これが、この度の私のミッションかと受け止めております。

幸いに、土研には各分野に立派な専門家がおられます。これらの方々と、これからの土研について、新たな研究領域の開拓について、再び、熱い議論を交わしていきたいと願っております。TXの開業で東京へのアクセスは一変しましたが、これからの昼夜分かたぬ討議に備え、活動拠点（单身宿舎）の整備も万全です。皆様のご支援、ご協力をいただき、充実したつくばの時間を過ごしたいものと考えております。



前研究調整監 佐藤弘史

7月30日付で独立行政法人土木研究所を辞職し、7月31日付で国土交通省を辞職し、8月1日付で筑波大学に採用となりました。2年4ヶ月の研究調整監（官）在任中はいろいろな面でご指導ご支援を賜り、ありがとうございました。

さて、私が研究調整監在任中の平成17年度は第1期中期計画の最終年度であり、また、平成18年度は第2期中期計画の初年度でありました。すなわち、第1期の重点プロジェクト研究の成果をとりまとめ、事後評価を受けるとともに、第2期の重点プロジェクト研究の計画を策定し、事前評価を受ける時期でした。皆様のご尽力およびご協力のおかげで、それぞれ高い評価を頂くことができ、無事に第2期中期目標期間を迎えることができました。何とか責任の一端を果たせたのではないかと考えております。

とはいえ、独立行政法人や社会基盤整備に向けられる眼には、まだまだ厳しいものがあります。引き続き、坂本理事長のご指導の元、気を緩めることなく、素晴らしい成果

を生み出していかれますよう、お祈り申し上げます。

大学の方では、荷物の搬入、パソコンの設定等が完了し、仕事を始められる体勢となりました。土木研究所の近くに居りますので、情報収集等のため頻繁に伺うことになろうかと思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



道路技術研究グループ長 瀬尾卓也

8月1日付けで道路技術研究グループ長を拝命しました瀬尾卓也（せおたくや）です。私が最初につくばで勤務したのは平成元年で、旧土木研究所の交通安全研究室（現在の国総研道路空間高度化研究室）でした。当時は交通事故の死者数が1万人を超えて更に増え続けており、第二次交通戦争とも言われて、研究室と本省、警察庁などを回りながら事故データと格闘したことが思い出されます。その後現場に出て、再び道路研究室に勤務していた平成13年4月、国総研と独法土研とに別かれました。大きく変わる研究環境の中で、つくばでの研究が今後どうなるのか、皆が不安を抱いていたと思います。昨年4月から

は国総研に新設された企画部のコーディネート研究官として、各研究部間の連携や研究所の入札契約のあり方などに関わらせていただき、発足後5年を経た国総研のあり方について、考えさせていただくことが出来ました。

道路技術研究グループがある別館7階は、私にとって旧土研時代の懐かしい場所ですが、道路関係の業務については約3年間のブランクがあります。独法移行後6年を経て土研がどう変わってきたのか、これまでの実績等を勉強しつつ、今後の土研の中での道路研究のあり方について模索し議論することが先ず初めにやるべきことであると認識しています。

社会資本整備のような100年あるいはそれ以上のスパンで物事を考えることが希薄になってしまった日本社会の逆風の中で、如何に必要な情報を蓄積し発信していくのか、常に問題意識を持ち続けていきたいと考えています。宜しく御指導、御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

前道路技術研究グループ長 萩原良二

7月31日付で道路技術研究グループ長を退任しました。在任中は格別のご指導ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

昭和52年に建設省に採用になり、30年4か月の公務員生活のうちの約半分の15年間、土木研究所に勤務させていただきました。最初に土木研究所千葉支所地震防災部耐震研究室に配属されて、つくば移転を経験し、その後振動研究室、独立行政法人になってから材料地盤研究グループと（基礎）道路技術研究グループで多くの方にお世話になりながら仕事をすることができました。道路橋示方書耐震設計編の基準作り、つくば移転時に新設された大型の振動台や部材耐震の加振機





を使った実験など、懐かしく思い出されます。また、材料地盤ならびに道路技術研究グループでは、幅広い分野の技術開発等に関与することができ、貴重な経験となりました。

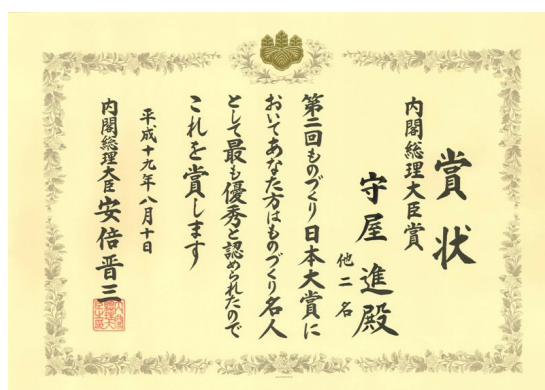
重点プロジェクト研究や道路整備勘定の研究予算要求では、担当グループ以外のチームの皆様にも大変お世話になったことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今後、土木研究所での経験を活かし、土木技術者として新たな業務に取り組んでいきたいと思っていますので、引き続きご指導ご支援を賜りますようお願いいたします。皆様のご健勝と土木研究所のますますの発展を心からお祈り申し上げて退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 第2回ものづくり日本大賞受賞

平成19年8月10日、総理大臣官邸で「第2回ものづくり日本大賞」内閣総理大臣表彰が行われ、土木研究所と山一化学工業(株)が共同開発した「インバイロワン工法」が産業社会を支えるものづくりとして認められ、同技術の開発を行った土木研究所新材料チームの守屋総括主任研究員が山一化学工業(株)の臼井明氏、荒川伸彦氏とともに受賞、安倍内閣総理大臣から表彰状を授与されました。

ものづくり日本大賞は、我が国産業・文化を支えてきた「ものづくり」を承継・発展させるため、ものづくりを支える人材の意欲を高め、存在を広く社会に知らせるために創設されたものです。ものづくりの中核を担う中堅人材、伝統の技を支える熟練人材、将来を担う若手人材をバランスよく表彰するもので、チームワークが我が国の強みであることを踏まえ、個人のみならず、グループも受賞の対象としています。第2回目の今回は、20件45名（うち、国土交通省関係は7件、14名）が内閣総理大臣賞を受賞しました。



|       |                  |      |
|-------|------------------|------|
| 受賞者   | 材料地盤研究グループ新材料チーム | 守屋 進 |
| 表彰名   | ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞 |      |
| 業績    | インバイロワン工法の開発     |      |
| 授賞機関  | 内閣総理大臣           |      |
| 受賞年月日 | 平成19年8月10日       |      |

(総務課)

## お知らせ

### 人事異動

7月30日付（つくば）

| 区 分 | 氏 名   | 新 役 職                                     | 旧 役 職 |
|-----|-------|-------------------------------------------|-------|
| 辞 職 | 佐藤 弘史 | 7/31付け国土交通省大臣官房付（同日付け辞職）（8/1付け国立大学法人筑波大学） | 研究調整監 |

7月31日付（つくば）

| 区 分 | 氏 名   | 新 役 職                   | 旧 役 職               |
|-----|-------|-------------------------|---------------------|
| 辞 職 | 萩原 良二 | 8/1付け国土交通省大臣官房付（同日付け辞職） | つくば中央研究所道路技術研究グループ長 |

8月1日付（つくば）

| 区 分 | 氏 名   | 新 役 職               | 旧 役 職                         |
|-----|-------|---------------------|-------------------------------|
| 採 用 | 木下 賢司 | 研究調整監               | 国土交通省道路局道路交通管理課長              |
| 採 用 | 瀬尾 卓也 | つくば中央研究所道路技術研究グループ長 | 国土交通省国土技術政策総合研究所企画部コーディネート研究官 |

8月16日付（つくば）

| 区 分 | 氏 名  | 新 役 職 | 旧 役 職                     |
|-----|------|-------|---------------------------|
| 採 用 | 大城 温 | 企画部参事 | 国土交通省道路局国道・防災課道路防災対策室課長補佐 |

#### 編集後記

最近、笑わなくなったかなあ。時々、あまりの熱気に息苦しくなることもあるかなあ。でも大丈夫。札幌には大通納涼ガーデン（ビアガーデン）がある。ビアガーデンには、勤労者の笑い声と爽やかな空気がある。白昼堂々青空の下でビールを飲むことの有り難さ。仕事があって生活がある幸せ。数千人の勤労者の笑顔を眺めていると、釣り合いを崩しかけたヤジロベエも立ち直る。自由な口と、公平な耳と、為すべきことを為す手足と、感謝の気持ちがヤジロベエに蘇る。

ビアガーデンには、また1年来られなくてもやって行けそうな気がする。

(T. N)